

チーム名	まとり	大学・学部	千葉大学工学部 デザイン学科/建築学科	茨城ステージ
プラン名称	水戸で楽しむ大人の修学旅行			
リーダー名	今村隆太	テーマ	魅力度最下位脱出に向けた「観光まちづくり」	本選出場 【観光庁長官賞】 【オーディエンス賞】
指導教職員名	植田憲			
メンバー名	今村隆太、大島正暉			

0. 観光まちづくりとは

私たちが考える観光まちづくりとは、その土地の歴史を理解し、時代に応じた形で未来へ受け継ぐこと、そしてその過程で、人が地元を愛し、外の人もその土地に興味を持つことであると考えます。

1. プランの目的

本提案は、水戸の伝わりきっていない魅力を噛み砕いて、修学旅行として構成した大人のためのちょっと洗めの旅である。「一張一弛」というキーワードをもとに観光名所と街が一体となり、中心市街地の活性化や地域資源の再発見を図る。

2. 新規性

- ・弘道館と偕楽園に伝わる「一張一弛」の思想を、現代版にアレンジして修学旅行という形で体感できる。
- ・水戸伝統の水府提灯に水戸の街の地図をいれることで、地域資源と人、そして街との新たな関係をつくる。

3. 実現計画

- ・弘道館と連携し、さまざまな分野の講師をお呼びして実際に弘道館の中で授業を受けることで、現代の藩校として参加者に学びを提供する。
(弘道館の承諾済み！)

4. 実現した場合の効果

- ・歴史の成り立ちに根付いたブランドイメージの形成。
- ・観光地としての意識の向上による、中心市街地の活性化やツアースタッフの雇用の創出。

水戸で楽しむ大人の修学旅行

水戸の歴史と思想の追体験プラン

水戸の課題

観光：季節による誘客力の差。観光地同士のアクセスが不便。
地域：中心市街地の空洞化。住民の観光地としての意識の不足。

→ ただ水戸の街の中を歩いているだけでは水戸の魅力はわかりづらい。

伝わりきれっていない水戸の魅力を噛み砕いて、美しく楽しい形で伝える。

プラン提案

ターゲット

学びのある、美しい旅をしたい
20代以上の大人。

一張一弛とは

時には厳格に、時には寛容に、という学びと遊びの両方が大切であるという思想のこと。この思想をもとに弘道館と偕楽園がつくられるほど、水戸の土地に根付いた考え方である。

一張

一弛

- 「21世紀の藩校」
承認
- ① 弘道館で行う大人のための授業。
 - ② 修学旅行バスで移動。
 - ③ 偕楽園にて陰と陽の世界を感じ学ぶ。
現代における陰
 - ④ 千波湖上の幻想的な一本道を歩いて水戸駅へ。
現代における陽
 - ⑤ 宮下銀座商店街にて、好きな飲み屋で美味しい食べ物を食べる。



プランのルート

プロダクト提案

水戸は提灯の三大産地の一つ



水戸の伝統工芸品である水府提灯を用いたプロダクトの提案。地図（水戸の街並み）が印刷された水府提灯を持ちながら千波湖を歩いていく。



千波湖上の一本道を水府提灯が照らす